私たちの町の文化財

速報！上代遺跡

■ 第７話　竪杵発見！

震災から２ヶ月と少し経ちますが、まだまだ余震が続きますね。早く落ち着いて欲しいものです。

さて、今回は上代遺跡から見つかった農耕具の話をお届けします。なんと、古墳時代中ごろ（1500年ほど前）の溝から竪杵（たてぎね）が発見されました！月にいる兎が、臼（うす）とセットで使っているアレですね。これらは脱穀や製粉に使われるもので、上代遺跡で発見されたものは長さ１ｍ程でした。

竪杵は1.5～0.8mの長さのものが他の遺跡から発見されています。この長さの違いは何を表すのでしょうか？銅鐸の絵や中世の絵巻物では竪杵の使い手は女性です。1.5mというと当時の女性の身長ほどですね。ここから考えられるのは竪杵に対応する臼の違いです。長い竪杵は臼の底が地面に近い場合に用いて、短い竪杵は臼の底が地面より数10cm高い位置にあった場合に用いたのではないかと予想できます。ひとつの道具から、一緒に用いていた他の道具の形が予想され、当時の人々の生活の様子が見えてくるとわくわくしますね。また、上代遺跡からは竪杵の他にも鍬や鋤、石包丁やねずみ返しなどが発見されています。農耕の一連の流れを道具から見ることができる上代遺跡は、とても貴重なものだと再確認しました！

市文化振興課　入江由真氏

古墳時代といえば大和朝廷が国内統一した頃が～～稲作は始まっていたけど、杵で何を突いていたんだろう・・

平成28年7月　みにくま第159号に掲載